



フィンセント・ファン・ゴッホ《種まく人》1888年 油彩・カンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで
DIVISIONISM FROM SEURAT AND VAN GOGH TO MONDRIAN

印象派を超えて

会 期:平成26(2014)年1月2日(木)～2月16日(日) **会期中無休**

開館時間:9:00～17:00(金曜日は19:00まで)

※1月2日(木)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

料 金:一般 1,300円(1,000円)

高・大学生 900円(600円)

中学生以下無料

※()内は前売・20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車約20m

名勝「縮景園」とともに歩む アートの社
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上職町2-22 TEL (082)221-6246

http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/ FAX (082)223-1444

【展覧会概要】

ゴッホやモネ、スーラからモンドリアンまで。 印象派の名画たちが広島にやってくる！

モネやシスレー、ピサロなど、印象派から始まった光を色彩で捉える手法は、ジョルジュ・スーラ、ポール・シニャックら新印象派の画家たちによって、科学的に理論化され、光を色彩の「点」によって表す、いわゆる「点描」画法へと進化しました。

そして、ファンゴッホは、新印象派に強い影響を受けながらも、浮世絵への傾倒から、強い筆触や色彩を表現し、モンドリアンは、点描を超えて、幾何学的な抽象絵画へと到達しました。

本展覧会は、クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品の中から、スーラ、シニャック、ファン・ゴッホ、モンドリアンなど印象派を超えて、20世紀美術につなげた作家を紹介するものです。多くの作品がまとまって日本初公開となりますので、この機会に20世紀最大のコレクションをご堪能ください。

ゴッホと色彩の旅へ

【クレラー＝ミュラー美術館について】

クレラー＝ミュラー美術館は、オランダの中央部に位置するオランダ最大のデ・ホーヘ・フェーリュウエ国立公園の一角にあり、25万㎡もの広大な彫刻庭園に囲まれています。私たちが見ることのできる珠玉のコレクションの数々は、会社経営者の夫アントン・クレラーとその夫人ヘレーネ・ミュラーがオランダ政府に寄付したものです。その中でも、油彩画88点、デッサン110点に及ぶファン・ゴッホの作品は、その質と量ともにゴッホ美術館に匹敵します。また、科学的に理論化

された点描技法を開拓した夭折の画家スーラや新印象派のシニャック、幾何学的抽象絵画を生み出したモンドリアンなどが、まだ評価されていない当時、ヘレーネ夫人はその先駆性を評価し、積極的に収集しました。彼女のコレクターとしての優れた才能が、世界的にも高く評価される現在のコレクションを形成したのです。



【展覧会構成と内容】

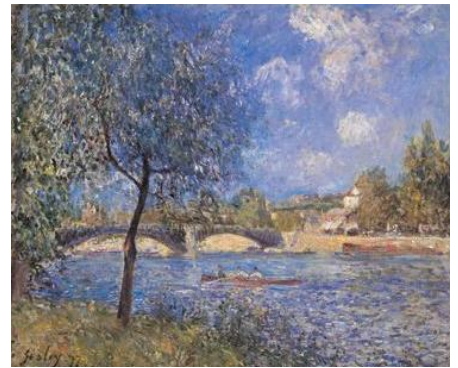
第1章 印象派の筆触分割

1800年代中葉のヨーロッパにおけるチューブ入り絵の具の発明は、絵画制作に大きな変革をもたらしました。画材の持ち運びが容易となったことで、これまでアトリエ内に限られていた制作が屋外においても可能となり、画家たちの目は、光あふれる戸外の景色に向けられることとなりました。

1874年、後に印象派展と呼ばれる初めての展覧会を開催したモネやピサロ、シスレーらは、空間の奥行や物の量感の表現より、光の変化に応じた色調の変化や空気の揺れ動きを、生き生きとした、時に荒々しい自由な筆致で描きました。

彼らは、絵の具を用いて出来る限り光の印象に近づけるため、「筆触分割」と「視覚混合」という手法を導入しました。これは、ある色を得るためには、絵の具を混ぜ合わせるより、純色の色斑を並置して、離れて見るとそれらが網膜上で混ざり合って見える視覚的作用を利用した方が、鮮やかな色が得られる、というものです。

個々の筆致が独立した印象派の作品は、伝統的な絵画の滑らかな画面と異なり、絵の具や色彩の力を強く意識させます。独特のリズム感をも感じさせる明るく瑞々しい画面は、絵画が純粋な資格の問題であることを強調しています。



クロード・モネ《菫ぶき屋根の家》1879年
油彩・カンヴァス、上原近代美術館蔵



クロード・モネ《ジヴェルニーの草原》1890年
油彩・カンヴァス、福島県立美術館蔵

第2章 スーラとシニャックー分割主義の誕生と伝搬

光を色彩に還元しようとした印象派の画家たちは、明るい細かな筆致を並列させることで、今までにない明るく瑞々しい画面を生み出しましたが、その反面で事物の形態や構図は不明確になりました。

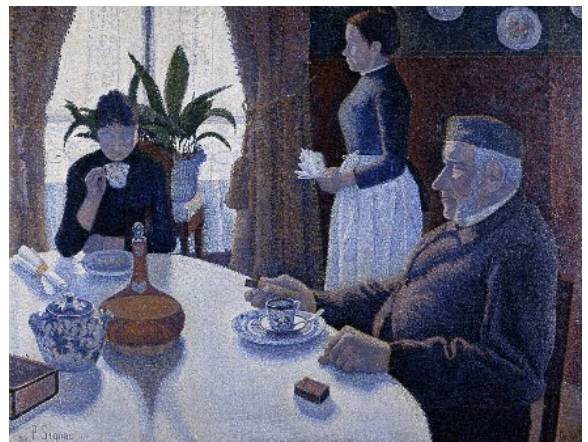
スーラやシニャックは、その主要な原因を印象派における色彩配置がまだ経験的、本能的な段階に留まっている点に求め、光と色彩をより科学的、理知的な原理に基づき表現するため、細かく分割された均一のタッチによる点描表現を徹底し、新印象派と呼ばれました。

スーラはフランス北西部の港や海岸をモチーフとして、理論的な色彩配置により、静謐で穏やかな美しい画面を創り出し、南仏に移り住んだシニャックとクロスは、地中海の海岸で光と色彩の相互作用の探求に没頭します。

新印象派によるこうした色鮮やかな点描による画面の構成は、その後、フォービズムに影響を与えるものとなりました。



ジョルジュ・スーラ《グラブリーヌの水路、海を臨む》1890年夏
油彩・カンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



ポール・シニャック《ダイニングルーム 作品152》1886-87年
油彩・カンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

【展覧会構成と内容】

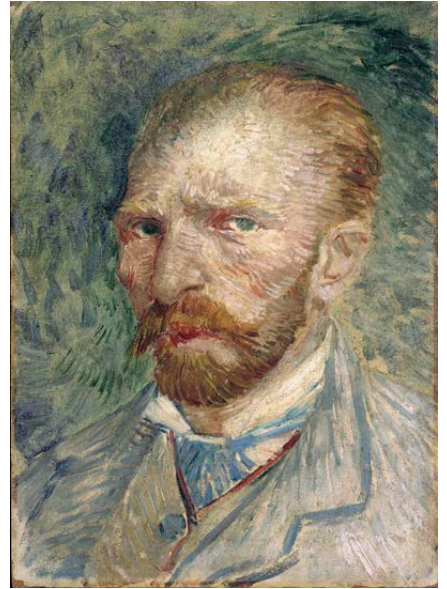
第3章 ゴッホと分割主義

印象派との出会いなしに、今日知られているファン・ゴッホは生まれなかったでしょう。

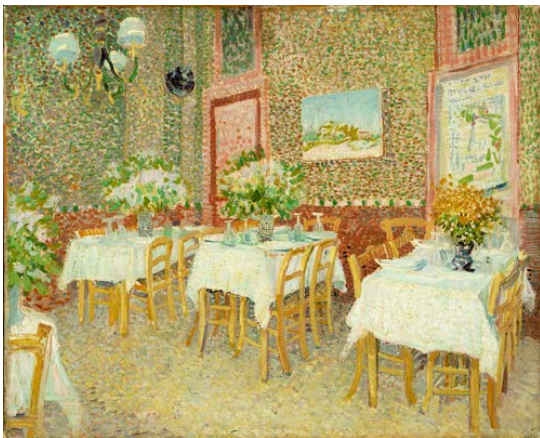
故国オランダで独自の絵画を探求していたファン・ゴッホは、1886年2月、パリに移住します。2年ほど続いたパリ時代は、彼の作品を劇的に変化させ、後の鮮やかな色彩と大胆な筆致による独自の絵画世界を生み出すことに繋がりました。

この時期、印象派は既に世に受け入れられ、新印象派をはじめとする新たな芸術的潮流が生まれ始めていました。パリでファン・ゴッホは、次世代を担う才能豊かな画家たちと交流する中で、スーラやシニャックからも影響を受け、《レストランの内部》にみられるように点描画法にも取り組んでいます。

印象派からとりわけ補色効果を学んだファン・ゴッホは、赤と緑や青と黄色などの対照的な色彩の効果を生かした、アルル時代の独自の様式へと展開していきます。アルル時代の傑作《種まく人》は、黄色と緑に彩られた太陽の光、オレンジと紫に彩られた農地、という艶やかで刺激的な色彩表現と力強く大胆な筆致が、見事なハーモニーを奏でています。



フィンセント・ファン・ゴッホ
《自画像》1887年 油彩・厚紙
クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum,
Otterlo, the Netherlands



フィンセント・ファン・ゴッホ《レストランの内部》1887年
油彩・カンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands



フィンセント・ファン・ゴッホ《麦束のある月の出の風景》1889年
油彩・カンヴァス、クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum, Otterlo, the Netherlands

第4章 ベルギーとオランダの分割主義

スーラやシニャックら新印象派の点描表現が最初に受容され、隆盛したのはベルギーとオランダです。1883年にブリュッセルで創設された前衛芸術家グループ「20人会」は、早くも1887年の20人会第4回展に、前年パリで発表されたばかりのスーラの大作《グランド・ジャット島の日曜日の午後》を展示し、この地の画家たちに衝撃を与えました。

20人会の中心メンバーであるファン・レイセルベルヘやヴァン・ド・ヴェルド、トーロップは分割主義に取り組んだ代表的な画家です。また、クレラー＝ミュラー夫妻のコレクション形成に指導的な役割を果たしたブレマーも、20人会の画家たちと交流し、自らこの技法を試みました。

分割主義は、ベルギーとオランダの美術界を席卷しましたが、その後1891年、スーラの夭逝により求心力を急速に失っていききましたが、その後のモダンアートに大きな影響を与えました。

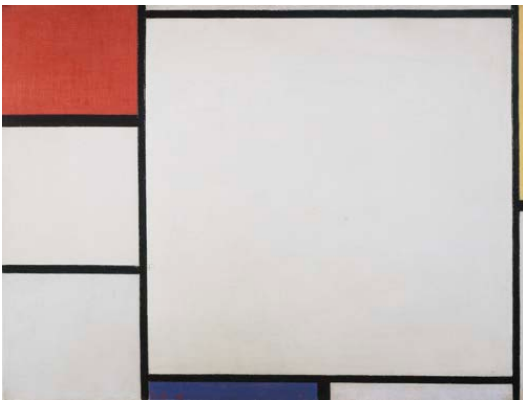
【展覧会構成と内容】

第5章 モンドリアン—究極の帰結

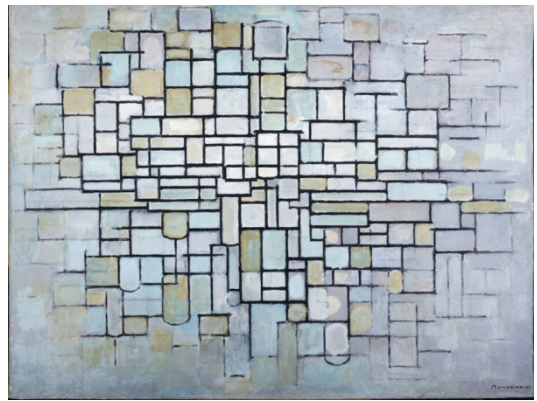
ハーグ派とアムステルダム印象派の伝統的な手法による絵画を描いていたモンドリアンは、1907年から1911年にかけてファン・ゴッホやトーロップなど点描主義の画家との交流を通じ、自ら実践する中で、より抽象的なスタイルへと移行していきます。樹木、教会の塔、あるいは海岸の埠頭をモチーフとして描かれたこの時期の作品には、幅の広い分割された筆触と幾何学化・単純化された形態が見て取れます。

やがてモンドリアンは、「新造形主義」として、宇宙の調和を表現するためには完全に抽象的な芸術が必要であると主張し、自然に対して、主観・感情、さらに奥行や立体を排していきました。画面からは様々な色や曲線が消え、水平線と垂直線、そして三原色と黒・白・グレーといった無彩色のみとなります。モンドリアンは、色彩を三原色と無彩色に還元し、色面をある種の形態として扱うことで、純粹のリアリティと調和を絵画において表現しようと試みました。

色を原色や無彩色に還元して、色の面をカタチとして扱うモンドリアンの絵画。それは、色彩を体系的に使ってハーモニーを生み出そうとした、新印象派の理想の到達点として位置づけられるのです。



ピート・モンドリアン
《赤と黄と青のあるコンポジション》1887年
油彩、カンヴァス
クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum,
Otterlo, the Netherlands



ピート・モンドリアン
《赤と黄と青のあるコンポジション》1887年
油彩、カンヴァス
クレラー＝ミュラー美術館蔵
© Collection Kröller-Müller Museum,
Otterlo, the Netherlands

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 泰井 良

事業推進課 山本恵子

【関連イベント】

記念講演会

演題:「新印象派と楽園のヴィジョン:アナーキズムを超えて」

講師:千足伸行氏 (成城大学名誉教授、海の見える杜美術館顧問)

日時:1月26日(日)14:00~15:30(開場13:30)

場所:地下1階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

美術講座

演題:「モンドリアンの芸術」

講師:越智裕二郎 (当館館長)

日時:1月19日(日)13:30~(開場13:00)

場所:地下1階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

演題:「ゴッホからモンドリアンまで 一色彩の自立一」

講師:泰井良 (当館主任学芸員)

日時:2月9日(日)13:30~(開場13:00)

場所:地下1階講堂

※聴講無料。申込不要(先着200名)

ギャラリートーク

講師:泰井良 (当館主任学芸員)

日時:1月10日(金)、1月24日(金)、2月7日(金) 11:00~11:30

場所:3階企画展示室

※入館券が必要です。申込不要。

ウェブ・レポーター大募集

インターネットで情報発信をされている方に「印象派を超えて」展をご鑑賞いただき、その素敵な感想をインターネットを通じて、情報発信していただきます。もちろん、ウェブ・レポーターとして当日ご参加いただく方は、無料で「印象派を超えて」展をご鑑賞いただけます。

日時:1月10日(金)17:00~18:30

受付場所:3階ロビー

実施場所:3階展示室内

対象:ホームページ、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで情報発信をされている一般の方

特典:実施当日限り、「印象派を超えて」展にご招待

新春ロビーコンサート

1月2日はヴァイオリンと箏で洋と和の音色を、1月3日は篠笛と謡で和のコラボレーションをお楽しみください!

日時:1月2日(木)、1月3日(金) 13:00~14:00

場所:1階ロビー

出演:白井朝香(ヴァイオリン)、光原大樹(箏) ※1月2日

福原一閒(篠笛)、岩村尚子(謡) ※1月3日

ワンコイン縮景園

本展入館券ご提示により、一般、大学生は100円で縮景園にご入園いただけます。

【開催概要】

展覧会名称

「印象派を超えて」展

サブタイトル

点描の画家たち ゴッホ、スーラからモンドリアンまで
クレラー＝ミュラー美術館所蔵作品を中心に

開催クレジット

主 催：広島県立美術館、NHK広島放送局、中国新聞社

共 催：クレラー＝ミュラー美術館

後 援：オランダ王国大使館、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、FMちゅーピー76.6MHz、エフエムふくやま、尾道エフエム放送、FMはつかいち76.1MHz

協 賛：損保ジャパン、株式会社イズミテクノ、広島信用組合、クマヒラ、田中食品株式会社、にしき堂、もみじ銀行、Green Project 広島緑地建設株式会社、T&Tタウンファーマ株式会社、(株)広島銀行、ワコーグループ、広島信用金庫、もみじ銀行、(株)広田造園、(一社)広島県歯科医師会、(社)広島県薬剤師会、(株)アクト中食、広島市信用組合、大和証券(株)、西川ゴム工業(株)、生活協同組合ひろしま、日本たばこ産業(株)広島支店

協 力：KLMオランダ航空



本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けています。

This exhibition is covered by the Japanese Act on the Indemnification of Damage to Works of Art in Exhibitions (Act No.17 of 2011)

会期

平成26(2014)年1月2日(木)～2月16日(日)

※会期中無休

※9:00～17:00(金曜は午後7時まで閉館)

※1月2日(木)は10:00から。入館は閉館30分前まで。

入館料

一般：1,300円(1,000円) 高・大学生：900円(600円) 中学生以下無料

※ ()内は前売り・団体20名以上

※ 学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

※ 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)
の当日料金は半額

※ 東日本大震災避難者は無料(1階総合受付でお申し出ください。)

※ 特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 泰井 良

事業推進課 山本恵子